

黙想と祈りへの招き

— 降臨節を前に —

2018年11月18日（日） 奈良基督教会
講話・司祭 井田 泉

聖歌 325 み手の中で

開会の祈り

フランスシター奏楽

聖書 イザヤ書 63:7-10

63:7 わたしは心に留める、主の慈しみと主の栄誉を
主がわたしたちに賜ったすべてのことを
主がイスラエルの家に賜^{たまわ}った多くの恵み
憐れみと豊かな慈しみを。

8 主は言われた

彼らはわたしの民、偽りのない子らである、と。

そして主は彼らの救い主となられた。

9 彼らの苦難を常に御自分の苦難とし、

御前に仕える御使いによって彼らを救い、

愛と憐れみをもって彼らを贖い、

昔から常に、彼らを負い、彼らを担ってくださった。

10 しかし、彼らは背き、主の聖なる霊を苦しめた。

主はひるがえって敵となり、戦いを挑まれた。

(沈黙)

黙想 I わたしは心に留める (7節)

・わたしたちも心に留めましょう。主なる神さまから受けたもの、与えられた恵みを。

(その一つか二つをここに書いてみましょう。)

黙想Ⅱ わたしたちのための主の苦難（9 節）

- ・救い主がわたしたちの苦難をご自分の苦難として負ってくださる。これを心にイメージしてみましょう。9 節の言葉に近づき、それを大切に心にとめます。
- ・わたしたちを救うために、神が愛と憐れみを注いでくださることを思いましょう。過去、現在、将来にわたって、そのことは変わることはありません。

（何か思うこと、感じるものがあればここに書いてください。あるいは 9 節の言葉、またはその一部を書いてもよいし、書かなくてもかまいません。）

黙想Ⅲ 主がわたし（たち）ご覧になる（8、10 節）

- ・神さまはふたとおりのわたしたちを見ておられます。
ひとつは、「わたしの民」「偽りのない子ら」です。
もうひとつは「主に背き、主を苦しめる者」です。
- ・わたしはこれまでどうだったでしょうか？

（「ふたとおりのわたし」に思い当たるものがあれば書いてみてください。）

奏樂

聖書 イザヤ書 63:15-19

63:15 どうか、天から見下ろし、輝かしく聖なる宮から御覧ください。

どこにあるのですか、あなたの熱情と力強い御業は。

あなたのたぎる思いと憐れみは、抑えられていて、わたしに示されません。

16 ……主よ、あなたはわたしたちの父です。

「わたしたちの贖い主」これは永遠の昔からあなたの御名です。

17 ……立ち帰ってください、あなたの僕たちのために、あなたの嗣業である部族のために。

18 あなたの聖なる民が、継ぐべき土地を持ったのはわずかの間です。

間もなく敵はあなたの聖所を踏みにじりました。

19 あなたの統治を受けられなくなってから、あなたの御名で呼ばれない者となってから

わたしたちは久しい時を過ごしています。

どうか、天を裂いて降ってください。御前に山々が揺れ動くように。

(沈黙)

黙想Ⅳ 天を裂いて ^{くだ}降ってください (19 節)

- ・深い嘆きの訴えが聞こえます。神に向かって嘆く声です。
- ・苦しみと悩みが激しく、神さまがそれを放置しておられるかのようです。
- ・自分たちの現実を神の前に広げて、神に見てほしい、聞いてほしい、答えてほしい、助けてほしい。
- ・その嘆きと訴えは 19 節「天を裂いて ^{くだ}降ってください」において絶頂に達します。

(神に訴えたいわたしの嘆きは何でしょうか。あるいは、だれかのことを神に訴えたいことはないでしょうか。思うことかがあれば書いてみてください。)

奏楽

祈りを書く

今日、この聖書に触れたことから与えられる自分の祈りはなんでしょうか。
短い言葉にしてみてください。

・感謝

・懺悔

・嘆き

・願い

分かち合い 数人ずつになって、感じたことを分かち合いましょう。一人が長くなりすぎないように。お互いによく聞きあってください。結論も発表もいりません。

(メモ)

まとめ——クリスマスの意味

・神の子、救い主イエス・キリストが人となって地上に来られたのは、あの「天を裂いて^{くだ}降
ってください」との祈りが天に通じて実現した出来事です。

祈り

聖歌 325 み手の中で

奏楽